

第2期中期目標期間中に係る業務実績見込み調書に関する法人への確認事項

No.	業務実績 調書 ページ	業務実績 調書 連番	質問内容	法人回答
1	1	1	<p>・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。</p>	<p>各目標指標の5年度見込については、令和4年11月～5年1月まで（3ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <p>【がん手術件数】 年間見込480件 目標指標600件 5年4月～5月 87件（進捗率14.5%）</p> <p>【化学療法件数】 年間見込3,624件 目標指標3,700件 5年4月～6月 954件（進捗率25.8%）</p> <p>【化学療法延べ患者数】 年間見込774件 目標指標800件 5年4月～6月 304件（進捗率38.0%）</p> <p>【放射線治療件数（体外照射法）】 年間見込3,376件 目標指標3,500件 5年4月～6月 937件（進捗率26.8%）</p> <p>【放射線治療延べ患者数（体外照射法）】 年間見込150件 目標指標150件 5年4月～6月 43件（進捗率28.7%）</p>
2	1	2	<p>・脳梗塞入院1週間以内のリハビリ強度の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。</p> <p>・年度間で増減が大きいのが、理由はあるのか。</p> <p>・4年度実績は前年度より低下したが、5年度は改善できる要素があるのか。</p>	<p>目標指標の5年度見込については、令和4年4月～12月まで（9ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <p>【脳梗塞入院1週間以内のリハビリ強度】 年間見込13.3 目標指標15.0 5年4月～5月 15.6</p> <p>年度間で増減が大きい理由は、令和2年度に、個人担当制からチーム制に変更し、脳血管チームとして多職種（PT/OT/ST）が関わりやすくなった結果、令和2年度の強度が上がった。その後は、全国平均を十分上回っている。令和4年度は、スタッフが新型コロナウイルス感染症に罹患あるいは濃厚接触者になり、十分なマンパワーを割けなかったこと、通常時は、最大6単位～9単位行うことが可能であるが、新型コロナウイルス感染症の罹患リスクを減らすために各患者のリハビリテーションを各職種1日最大1単位ずつまで（PT1単位、OT1単位、ST1単位の最大3単位）に制限したことが大きな要因としてあげられる。現在は、制限を解除している。</p> <p>4年度実績は前年度より低下したが、コロナ禍による規制がなくなったため5年度は改善できる見込みである。</p>

No.	業務実績 調書 ページ	業務実績 調書 連番	質問内容	法人回答
3	2	4	<p>・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。</p> <p>・4年度実績は前年度より低下したが、5年度は改善できる要素があるのか。</p>	<p>各目標指標の5年度見込については、令和4年4月～5年1月まで（10ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <p>【糖尿病教育入院件数】 年間見込31件 目標指標60件（4年度、コロナ禍や新病院移転の影響を受けたことを考慮） 5年4月～6月 12件（進捗率20.0%）</p> <p>【糖尿病看護外来受診者数】 年間見込187件 目標指標200件（4年度、コロナ禍や新病院移転の影響を受けたことを考慮） 5年4～6月 39件（進捗率19.5%）</p> <p>4年度実績の低下はコロナ禍や新病院移転の影響を受けたので、一時的要因と考えており、5年度は若干増加していくものと見込んでいる。なお、糖尿病教育入院件数について7月は実績、予約を含め4件（7月11日現在）であるが、直前に入院予約が決定することもある。</p>
4	3 5	5 8	<p>・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。</p> <p>・精神科病院からの身体疾患受入頻度については、過去の確認で、「精神科病院からの身体疾患受入頻度について依頼があった事例は断っていないが、一般病棟でも受け入れて対応できているため数値が低い」旨をうかがっている。令和4年度実績は1.8%であったが、令和5年度は4.0%を実績見込みとした特殊要因などはあるのか。</p> <p>分子：精神科病院からの身体疾患受入患者数 分母：総病床数</p>	<p>各目標指標の5年度見込については、令和4年4月～12月まで（9ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <p>【院内他科入院中の精神科診察依頼頻度】 年間見込183.1% 目標指標190.0% 5年4月～6月 156.3%</p> <p>【精神科病院からの身体疾患受入頻度】 年間見込2.3% 目標指標4.0% 5年4月～6月 0.3%</p> <p>【精神科リエゾンチーム加算】 年間見込330件 目標指標400件 5年4～5月 81件（進捗率20.3%）</p> <p>【認知症ケア加算】 年間見込149件 目標指標160件 5年4～5月 27件（進捗率16.9%）</p> <p>新病院への移行時期が重なり受け入れを制限していた事が一つの要因としてあげられる。また、依頼を受けた場合は、断っていないので、依頼件数が少ないと受入頻度はさがる。目標指標4.0%としており、今年度は、まだ実績が上がっていないが、4年度の実績1.8%程度にはなる見込みである。通常は一般病棟での受入となっている。</p>

No.	業務実績 調書 ページ	業務実績 調書 連番	質問内容	法人回答		
5	4	6	<p>・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。</p> <p>・「コロナ禍のため、令和2年度以降受入率が低下したが、通常時であれば目標達成が可能であると考えている。」とあるが、令和3年度実績では、救急搬送要請された件数2,604件のうち、救急搬送の受入に至らなかった件数69件の内訳として「新型コロナウイルス感染症の対応中15件」と確認事項に記載があった。仮に、コロナの影響がなければ、この15件が0件になるということか。また、それだけでは、令和5年度の99.0%は達成しがたいかと思われるが、例えば新病院になって処置ベッドが増えるなど、受入れが可能となる要因がほかにもあるのか。</p>	<p>各目標指標の5年度見込については、令和4年4月～5年1月まで（10ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【救急搬送患者受入件数】 年間見込2,988件 目標指標2,500件（他医療機関の新型コロナやクラスターの影響により、一時的に当院への搬送が増加していたことを考慮し、コロナ禍前の実績（2,464件）に近い数値とした） 5年4～5月 436件（進捗率17.4%）</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【救急搬送受入率】 年間見込95.7% 目標指標99.0% 5年4～5月 97.5%</p> </td> </tr> </table> <p>コロナの影響がなければ、令和3年度の「新型コロナウイルス感染者の対応中」15件は0件となる。新病院になり、処置ベッド等の数が7床から10床に増えており、処置ベッドが満床で受入れに至らないという場合は減少する。 4年度の救急搬送の受入に至らなかった件数143件の内訳は、 処置ベッドの満床 : 39件 重篤患者対応中など : 64件 他院への搬送提案 : 40件（他院に主治医がいるまたは当院で技術的に不可の場合） となっており、処置ベッドの満床を理由とした分を除いた受入率は、2,845/2,949=96.5% また、救急搬送についてのカンファレンス等の結果、受け入れが困難でお断りが妥当と判断された件数が128件あり、これを除いた受入率は、2,934/2,949=99.5%となり、目標を超える高い率となる。</p>	<p>【救急搬送患者受入件数】 年間見込2,988件 目標指標2,500件（他医療機関の新型コロナやクラスターの影響により、一時的に当院への搬送が増加していたことを考慮し、コロナ禍前の実績（2,464件）に近い数値とした） 5年4～5月 436件（進捗率17.4%）</p>	<p>【救急搬送受入率】 年間見込95.7% 目標指標99.0% 5年4～5月 97.5%</p>
<p>【救急搬送患者受入件数】 年間見込2,988件 目標指標2,500件（他医療機関の新型コロナやクラスターの影響により、一時的に当院への搬送が増加していたことを考慮し、コロナ禍前の実績（2,464件）に近い数値とした） 5年4～5月 436件（進捗率17.4%）</p>	<p>【救急搬送受入率】 年間見込95.7% 目標指標99.0% 5年4～5月 97.5%</p>					
6	6	10	<p>・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また予約の状況など、現時点での進捗はどうか。</p> <p>・特定健診受診者数の目標指標について、4年度実績は、「病院移転の影響で前後の月は減少し目標に達しなかった」と記載があったが、その他の月は、それぞれ何件ずつだったのか。また、病院移転の影響月を例年ベースに戻すと300件は達成できる計算になるのか。</p>	<p>各目標指標の5年度見込については、令和4年11月～5年1月まで（3ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <p>【特定健診受診者数】（特定健診は6月から開始となっている） 年間見込246件 目標指標300件（4年度、コロナ禍や新病院移転の影響も考慮） 5年6月36件、7月35件（7月は予約も含む）。（進捗率23.6%）</p> <p>【特定保健指導件数】 年間見込36件 目標指標50件（4年度、コロナ禍や新病院移転の影響も考慮） 5年4月～6月で、16件である。（進捗率32.0%）</p> <p>4年度の特定健診の実績は、6月34件、7月17件、8月2件、9月3件、10月20件、11月28件、12月25件、1月9件、2月21件、3月16件であった。</p> <p>休診日を除き、1日5件まで受入れ可能である。</p> <p>5年度は、例年どおり6月から開始しており、6月の実績は36件であった。7月は予約も含め35件であるため、このペースであれば令和4年度を上回る見込みである。</p>		

No.	業務実績 調書 ページ	業務実績 調書 連番	質問内容	法人回答
7	8	14	・小児医療について、今後は、どのように取り組んでいくと考えているのか。	秋田市の出生数が年々減少していく傾向にあっても、大切な小児を守るため、充実した小児医療体制の維持に努める。 小児科医が平日24時間診療を行う小児救急については、コロナ禍で中止していた小児救急運営会議の定期開催を5年度から再開し、より円滑な運用に努める。 特殊外来について、子どもの心診療外来、アレルギー外来、母と子どものための外来、子ども達のためのサポート外来、虹外来なども継続し小児診療の提供に努める。
8	11	21	・新病院開院後に行われた令和4年度の調査の不满の内容の多くは、なれない施設での案内、動線、待ち時間についてである旨の記載があったが、内訳はどのようになっているのか。またその対応については、具体的にどのようなことを行ったのか。	調査時は、新病院への初回来院者が多く、なれない施設での案内、動線についてへの不満が多かった。施設での案内等に関すること16.4%、動線について9.4%、待ち時間について8.4%であり、目的の所にどう行ったらいいかわからない、出入口がわからない、診察や検査で1階と2階を行き来しなくてはいけない、会計書作成までの待ち時間がながいなどについて、サイン掲示で対応したり、人による対応をしたり、都度対応し改善に努めている。
9	16	31	・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。 ・逆紹介率の5年度目標（120.0%）が、中期計画目標指標（80.0%）や4年度実績（90.9%）から大きく伸びているが、どのような理由か。また、100%を超えるのは、どのような理由によるものか。 ・病床利用率について、中期計画目標は新病院の病床数ベースと認識しているが、令和4年度の実績は、どのような計算により算出したのか。 ・直近の病床利用率は何%か。 ・病床利用率について、「目標に近づく見込みである」旨の記載があり、「目標に近づくが計画達成までではできない」ようにも読めるが、計画達成の確度は高いのか。	各目標指標の5年度見込みについては、令和4年10月～5年1月まで（4ヶ月間）の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。 【紹介率（地域医療支援病院）】 年間見込49.6% 目標指標50.0% 5年4月～5月56.6% 【逆紹介率（地域医療支援病院）】 年間見込118.2% 目標指標120.0% 5年4～5月 68.9% 【病床利用率】 年間見込80.2% 目標指標90.0%（経営改善の検討より） 5年4～5月 73.0% 【在宅復帰率】 年間見込96.6% 目標指標97.0% 5年4月 97.9% 逆紹介率については、逆紹介患者数／初診患者数であり、分子には再診患者も含まれるため100.0%を超えることもある。 病床利用率について、入院延べ患者数／（各月の病床数×各月の日数）を12ヶ月分で算出した。 病床利用率の目標には、一般病床以外も含まれており、達成のため病床稼働向上のプロジェクトチームを設置し、目標に向けて取り組むこととしている。

No.	業務実績 調書 ページ	業務実績 調書 連番	質問内容	法人回答
10	20	40	<p>・各目標指標の5年度見込みは、どのように算定したのか。また、現時点での進捗はどうか。</p> <p>・診療材料費や、薬品費の対医業収益比率の上昇は、どのような要因によるものか（市固有の要因や、社会的要因など）。</p> <p>・今後はどのような取組を行っていくと考えているのか。</p>	<p>各目標指標の5年度見込については、令和4年11月～5年1月まで(3ヶ月間)の実績をもとに、年間試算に加え、関係診療科長等とのヒヤリングを実施し、以下の令和5年度目標指標とした。</p> <p>【診療材料費の対医業収益比率】 年間見込13.2% 目標指標13.3%以下 5年4月～5月 12.6%</p> <p>【薬品費の対医業収益比率】 年間見込16.5% 目標指標14.9%以下 5年4月～5月 17.1%</p> <p>【後発医薬品の使用割合】 年間見込91.0% 目標指標91.0% 5年4月～5月 92.5%</p> <p>がん化学療法等により、高額な薬剤の使用が増えていることと、カテーテルアブレーション治療やその他の手術等により、高額な医療材料の使用が増えていることから分子である薬品費や材料費が増加している。 分母となる医業収益については、患者数の減少から、伸びていない。 指標改善のために入院患者数を増やし、病床利用率を上げ、収益を上げていきたい。 また、プロジェクトチームを設置し、経費節減に取り組んでいくこととしている。</p>
11	21	41	<p>・中期計画に「資料事務の経験豊富な人材の確保又は専門的な研修の受講促進による人材育成」とあるが、どのように取り組んでいるのか。</p>	<p>急性期病院で勤務経験がある職務経験者を採用したり、診療報酬請求事務を行っている委託業者への指導を強化するとともに、毎月、査定・返戻への対策会議を開催し、診療報酬の査定額の減少に努めている。また、毎年保険診療に係る研修を開催している。</p>
12	21	42	<p>・「自己負担比率が増えている」とあるが、どのような意味か。</p>	<p>各健康保険の窓口負担割合のことである。（1割負担→2割負担など） 前期高齢者1割負担→2割負担（平成26年4月～）、後期高齢者は原則1割負担だったが、現在は所得によって2割負担（令和4年10月～）となる方もいる。 高額療養費制度についても区分が増えている。</p>

